

横浜市立大道小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 学力状況調査の平均通過率を見ると、「学習意識」「生活意識」の面では、ほとんどの学年で、市の平均を上回っている。しかし、学力の面ではまだ課題を抱えているのが現状である。
- (2) ここ数年、言語活動・コミュニケーション能力の育成を柱として、授業研究を進めている。昨年度からは体育科を取り上げ、全職員での熱心な研究・研修に取り組んでいる。
- (3) 本校は、これまで、特別支援教育の充実を重点として取り組んできた。取り出し指導を中心に、指導体制をしっかりと構築し、個性や特性に合った支援内容を考慮しての指導に成果が出ている。
- (4) 子どもたちの一日の家庭での勉強時間を「学年×10分」とし、家庭の協力も得ながら取り組んでおり、少しずつではあるが、学習習慣の定着があり、学習に対する意識も高くなっている。
- (5) アシスタントティーチャーを活用した入り込みの指導も積極的に取り入れ、一人ひとりの課題にあった学習とその結果としての自己有用感の育成を大切にして取り組んでいる。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 基礎基本の習熟を図る学習とそれを活用する力の伸長を視点にし、言語活動を通して自分の考えを表現できる授業の工夫をし、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。
- 特別支援教育の充実を目指し、一人ひとりに合った指導や支援の方法を研究します。
- 放課後における研修・研究時間を週一回は確保し、実践的な研修・研究を組織的に行います。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年度の実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

- ・学力面では、横浜市の平均を上回っている学年もあるが、下回っている学年が多い。引き続き、知識・技能の基礎基本の定着が図れるように取り組んでいきたい。
- ・各教科とも身につけた知識・技能を生かし、関連付けて考える「活用していく力」が伸びるように指導を進めていく。

(2) 学習・生活意識調査の状況と分析

- ・学習意識・生活意識は、市の平均を上回っている学年がほとんどであり、特に、高学年は顕著である。
(例) 6年「勉強は好きですか？」本校100%、市65%。*「好き、どちらかというと好き」
「家では1日にどれくらい勉強していますか？（1時間以上）」本校71%、市45%。
- ・また、体力・運動能力面では、昨年度よりも少し良い結果が出てきている。

(3) 教科学習の状況（課題として）

- 国語科：文章や話をしっかり理解し、自分の言葉で表現することと知識・技能の活用力が課題
- 算数科：自分の言葉で考えを説明したり、話し合っって考えを深めたりすることが課題
- 社会科：自分で課題や問題を見つけ、資料を活用して調べたり、話し合っって深めたりすることが課題
- 理科：基礎・基本の定着を高めるとともに、その活用力が課題。

(4) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

ここ数年、「学習意識」「生活意識」を高めることを目標にして取り組んできた。具体的には、【学習ルールの徹底・大道スタンダードの実践・教職員意識の共有化】が主な点である。このことが、学力向上につながると考え、力点を置いてきた。結果として、7年前の平成24年度以降、特に、「学習意識」「生活意識」の点で良い傾向が顕著になり、その状態を継続している。

その反面、学力の向上については、その兆しが出てきたところが現状である。今後も、基礎・基本の定着ができるような指導方法の改善や教材の工夫を心がけるとともに、身につけた知識・技能を活用する力の育成も併せて取り組んでいく。授業改善と個に応じた指導の充実を進めていく。

体力向上については、今年度も『体育科』を重点研究にし、【器械・ボール・陸上】を中心に研究を進め、【できる喜びを味わい、学び合うことができる子の育成】を目指して取り組んでいく。

4 平成30年度 目標と具体的方策

平成30年度 目標

基礎・基本の一層の定着とコミュニケーション能力の育成

(1) 学校組織としての共通の取組

- **基礎・基本の一層の定着**
授業時間や毎週火曜日と金曜日の朝の時間を活用し、家庭学習と連携をしながら習熟を図る。
- **コミュニケーション能力の育成**
授業の中に言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を必ず一つ以上位置付け、自分の考えを表現、交流できる授業を行う。
- **特別支援教育の充実**
児童理解と適切な指導にかかわる研修会を年数回程度実施するとともに、次週の計画を丁寧に立て、共通理解をしていく。関連機関との連携をさらに強くしていく。

(2) 学年・教科等としての取組

○ 基礎・基本の定着とコミュニケーション能力の育成

1 学年

- 「聞く」力を付ける。そのために、学びたくなるような授業の導入・展開を工夫する。
- 各教科で自分の考えを伝え合い、互いに学び合う楽しさを培いたい。

2 学年

- 各教科で、体験したことや既習事項を生かして、話し合ったり説明する文章を書いたりする活動を大切にする。
- 大事だと思ったことを確かめたり、関連付けたりしながら話し合う。

3 学年

- 各教科で言語活動を取り入れ、学習とのつながりを意識した説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり、補足したりしながら話し合うことで、学習内容の定着を図る。

4 学年

- 各教科で説明・記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、感想や意見を交流し、相手を認め、自分との違いを感じるような場面を設ける。
- 既習事項を活用して、考える学習を計画的に行う。

5 学年

- 自分の考えを、相手を意識して分かりやすく述べたり、書いたりするなど、表現活動を大切にする。
- 相手の意図をつかみながら聞き、自分の考えと比べて話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したりして学習し、振り返りを行う。

6 学年

- 自分の考えをもち、他者を意識して分かりやすく書いたり、話したりするなど「伝える」活動の充実を図る。
- 他者の考えを聞き、意見の相違点を明らかにしながら考えを広げたり、深めたりできるように話し合いの場を設ける。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。